

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする <ul style="list-style-type: none"> 当センターのレジデント修了者 日本病理学会病理専門医取得者（関連するサブスペシャリティ領域専門医）等取得済みまたは取得見込み 上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	がんに対する適切な病理診断のみならず、臨床・基礎の橋渡しとなれる次世代の病理医に必要な知識・技術を習得する
	研修内容	<ul style="list-style-type: none"> 研修期間は2年間 当院病理科で実施する病理診断（生検・手術検体に対する病理組織診断、細胞診、剖検）を行いながら、病理診断医としてのスキルアップを行う 原則として他科ローテートは実施せず、病理科での研修のみを行う（希望により他科ローテートを行うことも可能） 専門臓器を中心とした研修プログラムの策定も可能
	研修の特色	<ul style="list-style-type: none"> 病理組織標本を用いた研究、併設する先端医療開発センターでの基礎研究もしくはトランスレーショナル研究の実施も可能（内容については要事前相談） 連携大学院制度を用いた学位取得も可能
レジデント 3年コース・ 2年コース		本邦における病理診断医のほとんどが専門医資格保有者であること、当院は新専門医制度における研修基幹病院ではないことを考慮し、採用時に医師免許取得後3年目時点で病理診断医を目指した研修希望者には次項の「専攻医コース」での応募を推奨する

レジデント 短期コース	対象者	<ul style="list-style-type: none"> 病理を専門としない臨床科所属医師も可（病理診断に関する基礎的知識は有していることが望ましい） 原則として基本領域専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする 卒後年限に上下限なし
	研修内容	<ul style="list-style-type: none"> 病理科所属で、基本的に他科ローテートは行わない 病理診断に求められる知識・技術を習得する
	研修の特色	<ul style="list-style-type: none"> 研修者の希望に応じた柔軟な研修内容の設定が可能（たとえば特定臓器に限定した研修など） 最短3か月から最長2年未満の期間在籍します ※原則として3か月単位とする
専攻医 コース	対象者	<ul style="list-style-type: none"> ※基本領域専門医取得のための研修を目的としたコース 以下の全ての条件を満たした医師を対象とする 採用時に医師免許取得後3年目以降 新専門医制度において連携する基幹施設（H31年4月現在、国立がん研究センター中央病院、東京大学および筑波大学）での病理専門医研修プログラム登録者
	研修目標	
	研修内容	各基幹病院における研修プログラムの規定による
	研修の特色	学位取得に向けた病理組織標本を用いた研究、併設する先端医療開発センターでの基礎研究もしくはトランスレーショナル研究の実施も可能